

2. 地域の現況

ここでは、前項で整理した都市の現況を踏まえながら、各地区の現況について個別具体的に整理します。

2-1 地区区分

◆旧村集落による合併や現在の小学校区、及び板倉ニュータウンの整備を考慮して5地区を設定。

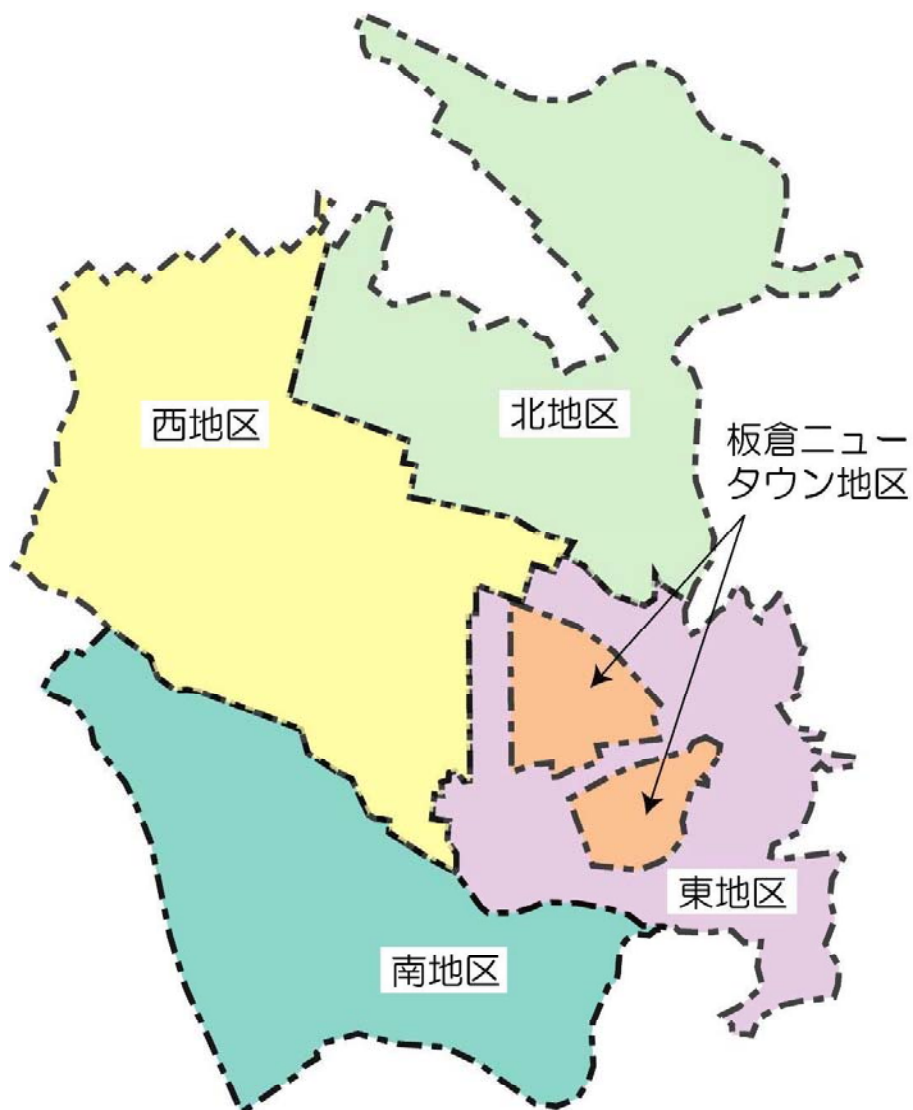


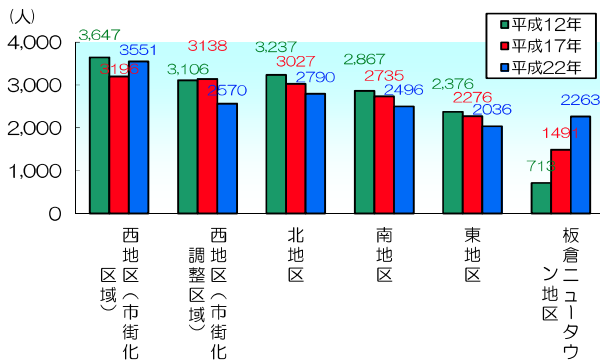
図2-1-1 地区区分図

2-2 地域ごとの現況分析

	西地区	北地区	南地区	東地区	板倉ニュータウン地区
人口	【市街化区域】 ・増加傾向 (111%:H22/H17) 【市街化調整区域】 ・減少傾向 (66%:H22/H17)	・減少傾向 (89%:H22/H17)	・減少傾向 (91%:H22/H17)	・減少傾向 (89%:H22/H17)	・増加傾向 (152%:H22/H17)
密度 可住地人口	【市街化区域】 ・33.88人/ha 【市街化調整区域】 ・3.12人/ha	・3.18人/ha	・3.96人/ha	・5.20人/ha	・21.01人/ha
築土地 物利用 及び 主要な 建	【市街化区域】 ・都市的土地利用構成が町 内で最も高い ・旧国道354号沿道に町 の都市機能が集積 【市街化調整区域】 ・農地の土地利用構成が高 い	・都市的土地利用構成が低 く、農地の構成が高い ・除川交差点周辺に公共公 益施設が集中 ・医療施設は地域内に1 件立地	・都市的土地利用構成が低 く、農地の構成が高い ・建物用途構成において、 農業施設の構成が町内で 最も高い ・南小学校周辺に公共公益 施設が集中 ・医療施設は地域の中心部 に2件立地	・都市的土地利用構成が低 く、農地の構成が高い ・建物用途構成において、 農業施設の構成が高い ・生活関連施設がほとんど なく、日常購買行動は板倉 ニュータウン地区内の施 設に依存 ・医療施設は地域内に2件 立地	・地域の約4割が未整備地 ・専用住宅構成が高い ・公民館等、市街地に必要 な施設の整備が進行しつ つあるが、十分ではない ・東洋大学板倉キャンパ ス、フォリオ板倉等大規模 建築物が多い ・医療施設は地域内に2件 立地
市街化 動向	・新築件数は板倉ニュータ ウンに次いで多い	・新築件数は町内で最も少 なく、平成16年以降ほと んど発生していない	・新築は平成16年以降ほ んど発生していない	・新築は平成14年以降減 少傾向にあり、近年はほと んど発生していない	・新築は隔年で多くなって おり、町全体の約4割を占 める
都市施 設等	・旧国道354号、国道 354号バイパス、(一)板 倉・粕谷・館林線が東西の 主軸であるが、南北方向の 道路が未整備 ・街路樹は国道354号バ イパス及び市街化区域内 の一部道路に限定 ・国道354号及び(一)板 倉・粕谷・館林線がバス路 線が運行	・(主)館林・藤岡線及び (一)海老瀬・館林線が東 西方向の主軸を形成する が、地域道路網の形成には 至っていない ・(主)館林・藤岡線の歩道 に連続性がない ・公園は4カ所のみであ り、身近に活用できる範囲 が限定 ・バス路線が1路線ある が、地域全体をサービスし ていない他、西地区と直結 していない	・(一)麦倉・川俣停車場線 及び(一)海老瀬・飯野線 で東西南北の主軸を構成 ・狭隘で線形が不良な道路 が多い ・(一)麦倉・川俣停車場線 の歩道は整備されている が、(一)海老瀬・飯野線の 歩道は連続性がない ・公園は集落単位で整備さ れており、公園密度が高い ・街路樹がほとんどない ・(一)麦倉・川俣停車場線 にバス路線が運行されて いるが、西地区と直結して いない	・国道354号、(主)佐 野・古河線、(一)海老瀬・ 飯野線が東西南北の主軸 を形成するが、地域道路網 の形成には至っていない ・歩道は国道354号、(一) 海老瀬・飯野線、(一)板倉・ 粕谷・館林線及び板倉東洋 大前駅周辺に限定 ・公園は4カ所に分散し て整備されているが、身近 に活用できる範囲が限定 ・当地区を経由するバス路 線はない	・(一)板倉・粕谷・館林線 が東西方向の主軸として 整備されている他、広幅員 な区画道路が整備されて おり、道路率・密度ともに 町内で最も高い ・歩道及び街路樹の充実度 が高い ・ふれあい公園及びいずみ の公園といった大規模公 園や街区公園が整備され ており、公園の整備は町内 で最も充実 ・板倉東洋大前駅を起点 に、各地区を経由して館林 市に向かうルートが運行 しており、比較的可利便性 が高い
自然環 境	・板倉川及び谷田川が所在 するが、田畑や屋敷林、樹 林等の身近な自然環境が 減少しつつある	・渡良瀬川が所在するが、 田畑や屋敷林、樹林等の身 近な自然環境が減少しつ つある	・利根川や谷田川その他、中 小河川や池沼が多く分布	・渡良瀬遊水地をはじめ、 池沼が数多く所在	・地区内の自然環境は少な いが、周辺に東地区の優良 農地が広がる
産・歴 ・史 ・観 光 文 化 施 産 等	・雷電神社の他、地区西側 集落(館林市との町境)付 近に神社・仏閣が多数所在 ・谷田川に群馬の水郷が大 規模なゴルフ場が所在	・神社・仏閣が地域内に散 在 ・渡良瀬川河川敷に板倉グ ライダー滑空場が所在	・地域の中心部に高鳥天満 宮がある他、神社・仏閣が 各集落内に点在	・神社・仏閣が地域内に散 在 ・地区東側に渡良瀬運動公 園がある他、観光スポット として健康の郷「季楽里」 や渡良瀬遊水地が所在	・新しい文化遺産として、 東洋大学板倉キャンパス などが所在

※ 可住地人口密度は平成23年都市計画基礎調査結果に基づく

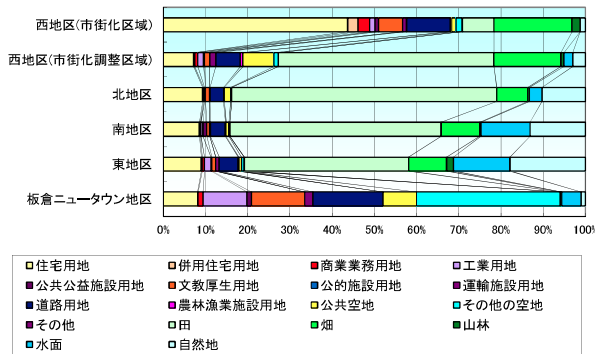
【人口の推移】



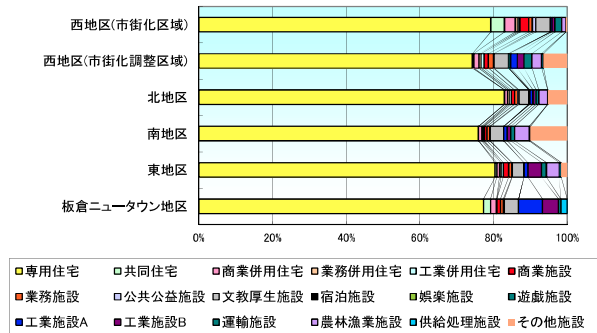
【可住地人口密度】

	人口(人)	可住地面積(ha)	可住地人口密度(人/ha)
板倉町	15,706	2,935.9	5.35
西地区(市街化区域)	3,551	104.8	33.88
西地区(市街化調整区域)	2,570	824.4	3.12
北地区	2,790	877.8	3.18
南地区	2,496	630.0	3.96
東地区	2,036	391.2	5.20
板倉ニュータウン地区	2,263	107.7	21.01

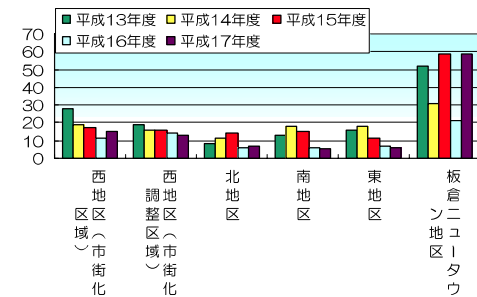
【土地利用面積構成】



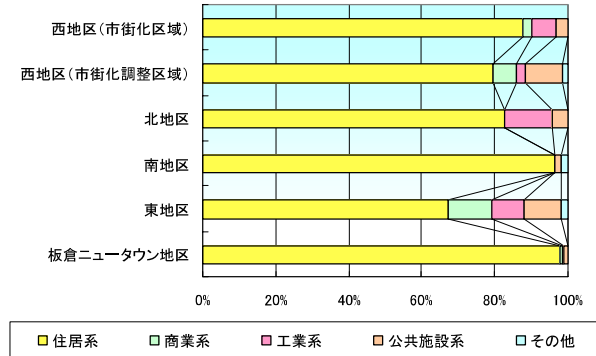
【建物用途構成】



【新築件数の推移】



【新築建築物の建物用途構成】



【公園整備密度】

	都市基幹公園		住区基幹公園				1人当り公園面積(m ² /人)		
	総合公園		地区公園		近隣公園			街区公園	
	面積(ha)	箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)	箇所数		面積(ha)	箇所数
板倉町	8.9	(1)	17.3	(1)	17.2	(4)	3.7	(27)	26.2
西地区(市街化区域)	0.0	(0)	0.0	(0)	1.3	(1)	0.6	(2)	5.9
西地区(市街化調整区域)	8.9	(1)	0.0	(0)	5.5	(1)	0.8	(4)	30.9
北地区	0.0	(0)	0.0	(0)	0.0	(0)	0.3	(4)	1.0
南地区	0.0	(0)	0.0	(0)	1.7	(1)	0.6	(7)	8.4
東地区	0.0	(0)	0.0	(0)	0.0	(0)	0.2	(3)	0.0
板倉ニュータウン地区	0.0	(0)	17.3	(1)	8.7	(1)	1.2	(7)	182.4

【道路率、密度】

	地区面積(ha)	道路面積(ha)	道路率(%)	1人当り道路面積(m ² /人)
板倉町	4,184.0	218.8	5.2%	139.3
西地区(市街化区域)	177.0	14.7	10.3%	41.4
西地区(市街化調整区域)	1,091.7	63.5	5.8%	247.1
北地区	1,098.3	35.7	3.3%	128.0
南地区	923.7	32.9	3.6%	131.8
東地区	675.3	30.1	4.5%	147.8
板倉ニュータウン地区	218.0	41.9	16.6%	185.2